

分野名		生体機能形態医学分野							
科目名		顎口腔機能病態学							
英文科目名		Oral and Maxillofacial Surgery							
担当教員	研究指導教員								
	科目担当教員	出村昇教授							
代表的な研究課題		顎関節疾患の機能病態解析と治療体系に関する基礎的臨床的研究							
		口腔癌の増殖、転移様相に関する分子生物学的研究							
		顎顔面の発育異常の病態生理に関する研究							
学修目標	一般目標	顎口腔系ならびに関連する頭頸部領域に対応できるようになるため、疾患の病態を理解し、より専門的な診断、手技、治療法の知識を習得する。							
	行動目標 (DPとの関連)	疾患を病理組織的、病態生理学的、病態生化学的など多角的に理解できる。						(DP1)	
		顎口腔機能病態学に必要な手技、方法を理解し、体得することができる。						(DP2)	
		発表、討論を通じて判断能力と問題解決能力を身につけることができる。						(DP3)	
		サイトカイン療法を始めとする治療法の開発を行うことができる。						(DP4)	
学位授与方針 (DP)	DP1：医学・生命科学全般にわたる幅広い学識と生涯にわたり自立して研究活動を継続する能力を有している。								
		DP2：高い倫理観と高度の専門知識を有し、最先端の医学研究を企画・立案して遂行する能力を有している。							
		DP3：独創的な学術論文を論理的、かつ明確に記述して公表し、国内外の学会において発表し討議する能力を有している。							
		DP4：科学的技能を活かして、地域医療から国際保健・医療まで医療全般の進歩に貢献し、次世代の研究者育成にも貢献する能力を有している。							
教科書		図説 口腔外科手術学（上・中・下） 大谷隆俊他編集 医歯薬出版 1999							
準備学習	内容	複数の大項目より課題を与え、これに関する対策法を論理的に考察する。 実験的考察についても課題を与えて基本的な準備学習をする。							
	時間	20分/1回の授業あたり							
課題に対するフィードバック		レポート等の課題を提出させた場合は、内容のチェック・添削を行い、本人へフィードバックして理解度のアップをめざす。							
評価方法等	評価方法	実習、レポートならびに口頭試問で評価する。							
		評価配分：実習 30%、レポート 20%、口頭試問 50%							
	成績評価基準	教育要項22頁[成績評価・単位認定方法等]参照のこと							
科目番号		講義	5011301	演習	5011302	実験実習	5011303	特別研究	50501015
単位	4		4		4		6 (2-4年次で)		
	30コマ	60H	60コマ	120H	60コマ	120H	30コマ	60H	
開講時期		通年		通年		通年		通年	
配当年次	主科目とする場合	1または2年次		1または2年次		1または2年次		2-4年次	
	副科目とする場合	1、2、3年次		-		-		-	
選択/必修の別	主科目とする場合	必修		必修		必修		必修	
	副科目とする場合	選択		-		-		-	
時間割	区分	講義		演習		実験実習		特別研究	
	昼間	前期15週	火曜 4限目		水・金曜 3限目		水・金曜 4限目		木曜 4限目
		後期15週							
	夜間	前期15週	火曜 6限目		水・金曜 6限目		水・金曜 7限目		木曜 6限目
後期15週									
備考		授業時間の詳細は、21頁 [医学研究科における授業時間] を参照のこと。 上記の時間に参加できない場合は、担当教員と協議の上、具体的な時間割を決定する。							
授業場所		臨床研究棟10階 顎口腔外科学セミナー室		臨床研究棟10階 顎口腔外科学セミナー室		臨床研究棟10階 顎口腔外科学実験室		臨床研究棟10階 顎口腔外科学 他	

担当教員	講義	演習	実験実習	特別研究
	出村昇教授	出村昇教授	出村昇教授	
授業内容	顎口腔系ならびに関連する頭頸部領域の解剖と生理について、臨床的見地に根差した研究解析の基礎となる系統的、専門的講義を行う。さらに咀嚼、味覚、構音、嚥下などの顎口腔機能を障害する疾患について、病態解明と治療法の開発に重点を置いた内容の講義を行う。このため、疾患を病理組織学的、病態生理学的、病態生化学的など多角的に深く理解し、障害を受けた顎運動機能の回復ならびに喪失した顎口腔の硬・軟組織の修復と再建を目的とした実験研究の遂行のための研究方法論を集学的に解説する。	顎口腔機能病態学において必要な実験的ならびに臨床的研究の手技、方法を理解し、論理的思考法を習得するための演習を行う。このため、基本的な研究方法論に加えて、専門性の高い研究技術・手技を体得するための指導を行う。さらに得られた研究結果に対する公正な評価と考察を行うため、関連情報の検索方法、欧文学術論文での推考と批判的論評を遂行できるように指導する。また、研究セミナーなどに参加することにより個々の研究課題のみならず、関連領域における幅広い知識を獲得し、さらに発表、討論を通じて判断能力と問題解決能力を身につけるための指導を行う。	顎口腔機能病態学において必要な基本的実習とそれぞれの研究課題に立脚した実験実習を行う。顎関節疾患における病態と治療法に関する実習では、患者から採取された関節組織と滑液を病理組織学的、生化学的に解析して病態解明を進め、さらに実験的顎関節炎モデルを作製してサイトカイン療法を始めとする治療法の開発を行う。顎骨の修復と再建に関する実習では、骨形成因子を応用した顎骨欠損症や顎骨形成不全、顎変形症の診断と治療についての実験研究を行う。	顎関節疾患の病態と治療法に関する基礎的、臨床的研究
授業計画（インターネットに掲載）	講義	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011301.pdf		
	演習	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011302.pdf		
	実験実習	http://www2.kanazawa-med.ac.jp/~d-gakuin/office/implementationplan/5011303.pdf		
資格取得などのキャリアパス	日本矯正歯科学会臨床指導医、日本口腔外科学会専門医の取得を目指す。			
研究指導教員の実務経験	歯科医師			
履修上の注意事項	①質問の受付は、随時行う。			
	②特別な配慮を必要とする場合は、事前に担当教員に相談すること。			
	③主科目として履修する場合は、1年次に共通科目実験動物学を履修すること。			
	④履修科目届にて履修希望を届け出し、履修年度の2月に、授業科目履修報告書にて、成績を報告することにより、修了要件の単位として認定される。			
	⑤履修報告の際には、履修した科目ごとに「授業改善のためのアンケート」を添付すること。			
オフィスアワー	出村昇教授（臨床研究棟10階 顎口腔外科学教室） 月曜日 16:00~17:00（事前にメールでの照会必須） e-mail n-demura[at]kanazawa-med.ac.jp [at]→@			